



花咲スポーツ公園新アリーナ等基本計画 (素案) について

令和 6 年12月23日

スポーツ施設整備課

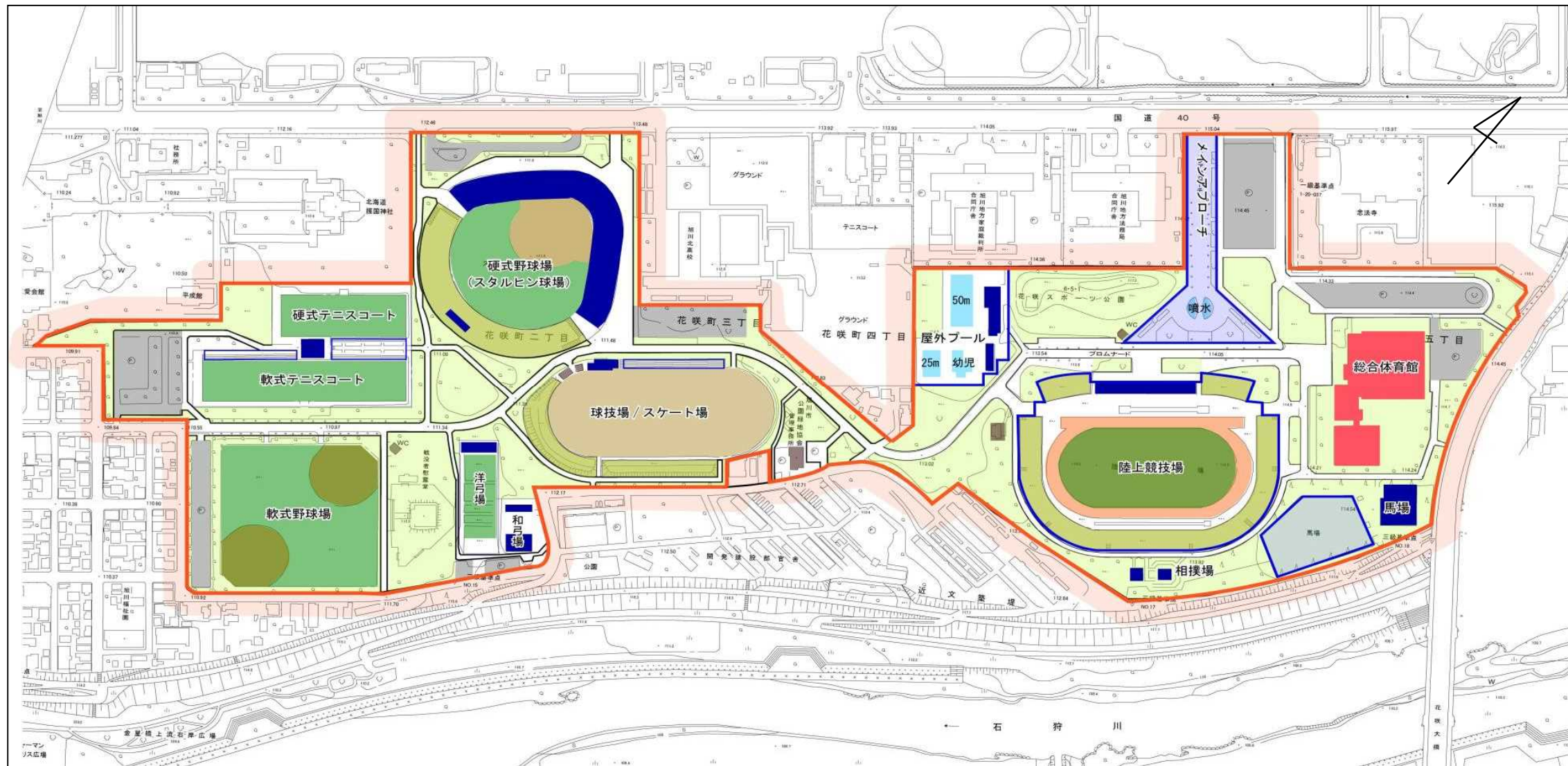
ASAHIKAWA CITY



－ 本日の内容 －

1. 花咲スポーツ公園再整備基本構想について
2. 東光スポーツ公園整備事業について
3. 今年度の事業内容について
4. 条件整理
5. 整備方針
6. 整備内容
7. 東光スポーツ公園の見直し内容について
8. 今後の予定について

1. 花咲スポーツ公園再整備基本構想について



1. 花咲スポーツ公園再整備基本構想について



■基本構想策定の目的と課題

1 施設の老朽化

- 建設から30年以上経過した施設が多く耐用年数を超える設備等への対応が必要

2 多様化するニーズへの対応不足

- 売店が少なくトイレは和式が多いなど利便性が低く多様化する昨今のニーズに対応しきれていない状況
- 公園は災害発生時の避難場所であるが、総合体育館は現在の耐震基準を満たしていないなど、防災拠点としての機能強化が必要

■花咲スポーツ公園再整備に向けた基本的な考え方

【再整備にあたって考慮すべきポイント】

- 全道大会等の大規模大会開催頻度の高い施設の優先的な施設更新の検討
- 老朽化が著しく使用に支障がある施設の優先的な施設更新の検討
- スポーツ利用者だけでなく幅広い市民が楽しむことのできる施設となるよう、リニューアルや新たな施設の設置を検討
- 災害時の避難環境の整備を検討
- 官民連携による財政負担の軽減と平準化を検討

■各施設の今後の方向性（2本の柱）

□既存施設の機能維持

【既存機能維持施設】

- 再整備に際し既存施設の規模や機能を、そのまま維持していく施設
＞スタルヒン球場、陸上競技場、テニスコート（硬式8面 軟式10面）、軟式野球場（2面）、弓道場、洋弓場

【既存機能見直し検討施設】

- 再整備に際し、ニーズ等の変化により機能の見直し検討が必要な施設
＞球技場（サッカーコート1面 冬期スケート場）、プール（50m・25m・幼児用）、馬場、相撲場、メインアプローチ、遊戯施設、駐車場（公園内約750台）

□建替え＋新たな機能の導入

【既存機能維持施設】

- 再整備に際し、新たな機能の導入を検討する施設
＞総合体育館 ＋ 新たな要素の追加（防災機能強化等）

※花咲スポーツ公園新アリーナ基本構想において基本的な整備方針を検討

1. 花咲スポーツ公園再整備基本構想について



花咲スポーツ公園新アリーナ基本構想

■総合体育館の課題

老朽化の進行	築40年以上が経過し、メインアリーナは非耐震の状況
代替施設がない	市内及び道北エリアのスポーツ拠点であるが、周辺に同規模の施設がない
スポーツ施設の不足	市民ニーズに対してスポーツ施設が不足
機能・設備の不足	プロスポーツや昨今の利用ニーズのほか、スポーツ以外の用途に対応不可
財源の確保	自治体負担の軽減が必要

■総合体育館の方向性

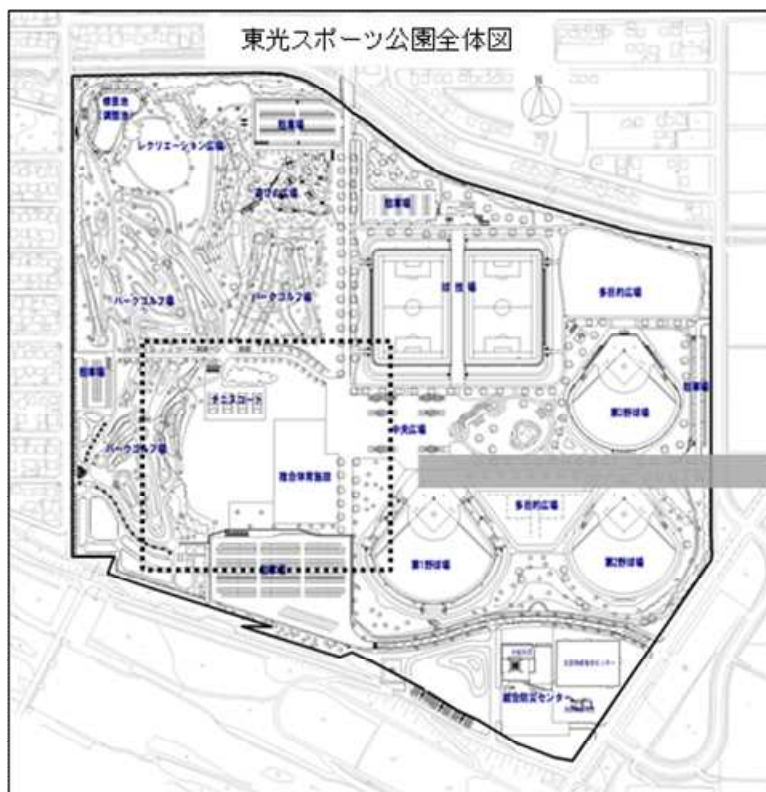
- ・施設全体の老朽化が進行していること、改修工事期間の代替施設が周辺にないことから改修ではなく、同公園内の別敷地に建替（現総合体育館は解体）
- ・東光スポーツ公園基本計画の複合体育施設とあわせて市民スポーツ推進の受皿
- ・単なる体育館の建替ではなく、プロスポーツやライブ・コンサートなど多目的な用途に対応したプロフィットセンター機能を有する多目的アリーナ
- ・市民の安全・安心に寄与するため、災害時における防災拠点機能の強化を検討
- ・整備コストの縮減や平準化、新たな魅力の創出を実現するため、民間活力の活用を検討
- ・花咲スポーツ公園全体を地域の賑わいづくりや健康で豊かな市民生活の実現に向けた再整備の中心となる施設

2. 東光スポーツ公園整備事業について（平成13年から事業実施）

基本理念 「スポーツを日常的で身近なものにする」「誰もがスポーツを楽しむ機会を増やす」
「スポーツ交流の機会を増やす」

整備テーマ 「より身近に、より楽しく、より健やかに」

「軟式野球場」「球技場」「テニスコート」「パークゴルフ場」が整備済
「複合体育施設」の整備を残すのみとなっている



複合体育施設 体育館、小体育館、武道館により構成
武道館は令和2年度に開館



武道館

施設概要（H28基本計画より）

体育館	床面積	約2,860㎡（バスケット3面）
	観客席	固定席約2,000席 (移動席, 仮設席も含め5,000席を確保)
小体育館	床面積	約950㎡（バスケット1面）
武道館	床面積	約1,100㎡（柔道3面）

3. 今年度の事業内容について



■花咲スポーツ公園新アリーナ等基本計画策定

新アリーナの役割を精査した上で、求める規模・機能をより具体化し、設置位置の詳細について検討

- 敷地や周辺の条件整理
- スポーツ団体へのアンケート及びヒアリングの実施
- 市民アンケートの実施
- プロスポーツの開催状況確認

■花咲スポーツ公園官民連携導入可能性調査

現総合体育館の建替えによる新アリーナの建設及び周辺の整備について、民間事業者のノウハウを活かして公園の利用活性化を図ることを目指し、民間事業者の参入意向等を把握するとともに民間活力の導入可能性について検討

- 事業スキームの検討と比較
- 事業者アンケート及びヒアリングの実施
- 事業スキームの評価・選定

4. 条件整理



■利用状況

総合体育館は、大会開催や団体が専用して利用する専用利用と、個人が自由に利用できる一般開放があり、令和5年度には総利用者数が178,251人となっています。

令和5年度は128大会、約94千人の利用がありましたが、大会利用は、各スポーツ団体が希望する日にちが重なることがあり、団体間でも調整しきれない大会は、周辺自治体の体育館へ変更や開催を中止しているものもあります。

また、市内のプロバレーボールチームのホームアリーナとなっており、2023-2024シーズンには14試合が開催され約2万人を超える集客がありました。

総利用者数（令和5年度）			
区 分		人 数	備 考
専用使用	大会	94,315人	
	大会以外	24,937人	講習会・スポーツ教室含む
個人使用		58,999人	幼児体育室含む
総利用者数		178,251人	※総利用者数には、観覧者人数は含まない。
開館日数		349日	
1日平均利用者数		511人	

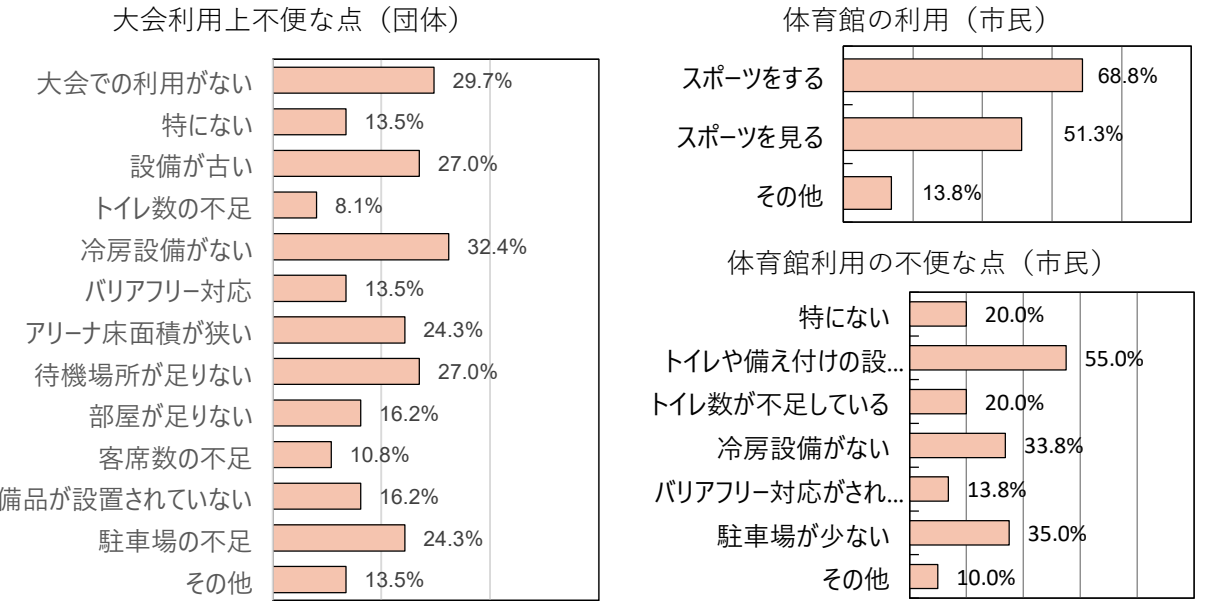
総合体育館の利用を希望したが利用できなかった大会件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全道大会	0件	1件	3件
地区大会	12件	12件	14件
合計	12件	13件	17件

■利用者等の意見

総合体育館を大会などで専用利用する団体へアンケート調査を実施しました。大会利用上不便な点として、「冷房設備がない」が約32%の回答があり、続いて「待機場所がない」「設備が古い」「大会開催にはアリーナの床面積が足りない」「駐車場の不足」との意見がありました。

また、市民アンケート調査（複数回答可）では、体育館の利用については「スポーツをする」が約69%、「スポーツを見る」が約51%と、一定の利用が見られました。不便な点は、「トイレや備え付けの設備が古い」が最も多い回答となっており、次いで「駐車場が少ない」「冷房設備がない」となっています。



4. 条件整理



■現総合体育館の課題

老朽化の進行、機能・設備の不足

- 現総合体育館は、築45年が経過し老朽化が進行
- メインアリーナは旧耐震基準であり、災害時の対応に不安がある
- アリーナ等への空調設備の設置がされておらず、夏季・冬季での利用時の快適性の確保が課題
- アリーナの多機能化やプロスポーツ・興行イベントの開催など、昨今の利用ニーズに対して、スポーツ以外の用途での利用への対応が出来ない状況
- 市民や利用団体へのアンケート結果からも、老朽化した設備の改善や十分な駐車場台数の確保を求める意見が多い
- 利用団体からは、アリーナの狭さ、待機スペースの不足等、施設規模に対する意見もあった

財政負担の軽減

- 大型の公共事業が続いていることに加え、新アリーナの整備及び東光スポーツ公園複合体育施設の整備も同時期に行う予定のため、財政負担の軽減が必要
- 国の方針や「旭川市公共施設等総合管理計画」においても、公共施設（アリーナ等）の整備・運用段階での民間資金・ノウハウの活用の位置付けあり

スポーツ施設・代替施設の不足

- 総合体育館において、全道大会・地区大会合わせて、令和5年度には13件、令和6年度には17件の大会が調整により、利用できない状況となっており、利用需要に対して施設が不足
- 市内及び道北エリアの中で最も多くの競技種目が実施でき、競技面を多く確保できるアリーナを有する施設が総合体育館となっており、周辺に同規模の代替施設がないため、建替え時の機能継続が必要

周辺交通の影響

- 現総合体育館は最大2,000人程度の来場が可能な施設規模（観覧席数）となっているが、5,000席以上の席数とした場合、交通需要の増大が想定されるため、周辺交通への影響が懸念

公園全体を含めた運営管理

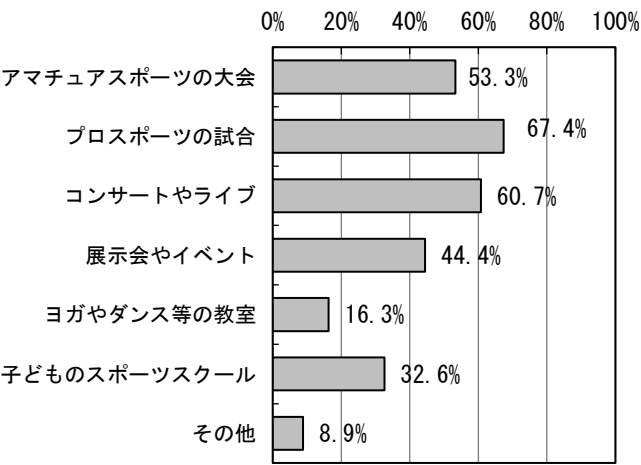
- 今後プロフィットセンターとしての位置付けを担うためには、更なる民間ノウハウを活用し、変化する需要への対応や公園内・周辺地域を含めた賑わいの創出を目指すことが必要

4. 条件整理



■新アリーナの利用方法に対する意向

新アリーナ整備に当たっては、地域の賑わいづくりに寄与する公園再整備の拠点となるよう進めることとしています。市民へのアンケートにより、「新アリーナに期待する利用方法」を伺い、次のような結果となりました。



■新アリーナ及び周辺整備に対する意向

新アリーナ整備に当たっては、地域の賑わいづくりに寄与する公園再整備の拠点となるよう進めることとしています。市民へのアンケートにより、「スポーツ公園内に賑わいを創出するためにあったらよい施設や空間」を伺い、次のような意見がありました。

	主な意見
運 動 ・ 健 康	・ ウォーキング、ランニングコースの充実 ・ ウィンタースポーツ施設（雪合戦、クロスカントリー等） ・ 冬季等に屋内で運動が出来る施設
公 園 ・ 設 備	・ 日陰、ベンチ等の休憩スペースの確保 ・ 野外イベントスペース
飲 食 ・ 物 販	・ カフェや飲食店、キッチンカースペース ・ 売店の充実
こ ど も 向 け	・ こども用施設の充実 ・ 屋内型の遊戯施設
交 通 ・ 駐 車 場	・ 駐車場の充実 ・ 旭川駅等からの公共交通手段の充実

■幅広いニーズへの対応

「第3期スポーツ基本計画（令和4年3月25日）」において、アリーナのスポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形での参画の促進を位置付けられている中で、スポーツ競技者だけではなく、より幅広い市民等からの利用ニーズに配慮した機能整備を行い、新アリーナを中心とした賑わい創出を図ることが求められます。

4. 条件整理



■東光スポーツ公園複合体育施設との役割分担

東光スポーツ公園複合体育施設の基本計画・基本設計では、プロ等の試合誘致も想定した観客席や控室等を検討していました。しかしながら、花咲スポーツ公園再整備基本構想において、新アリーナは、プロスポーツやライブ・コンサートなど多目的な用途に対応したプロフィットセンター機能を有する多目的アリーナとして整備することとしています。

そのため、東光スポーツ公園複合体育施設は市民利用や大会開催に適したスポーツ施設とすることとし、次のとおり役割を整理します。

花咲スポーツ公園 新アリーナ	市民利用＋プロスポーツ・ 興行による プロフィットセンター	市民・興行利用中心 (一部大会の開催も検討)
東光スポーツ公園 複合体育施設	市民利用や大会開催等に適 したスポーツ施設	市民・大会・練習利用中心 (現総合体育館と同様の役割)

4. 条件整理



■防災対応

- 洪水ハザードマップにおいて、花咲スポーツ公園は0.5m以上～3.0m未満の浸水が想定される区域となっている。
- 総合体育館は旧耐震基準の建物であり、耐震性が低い。

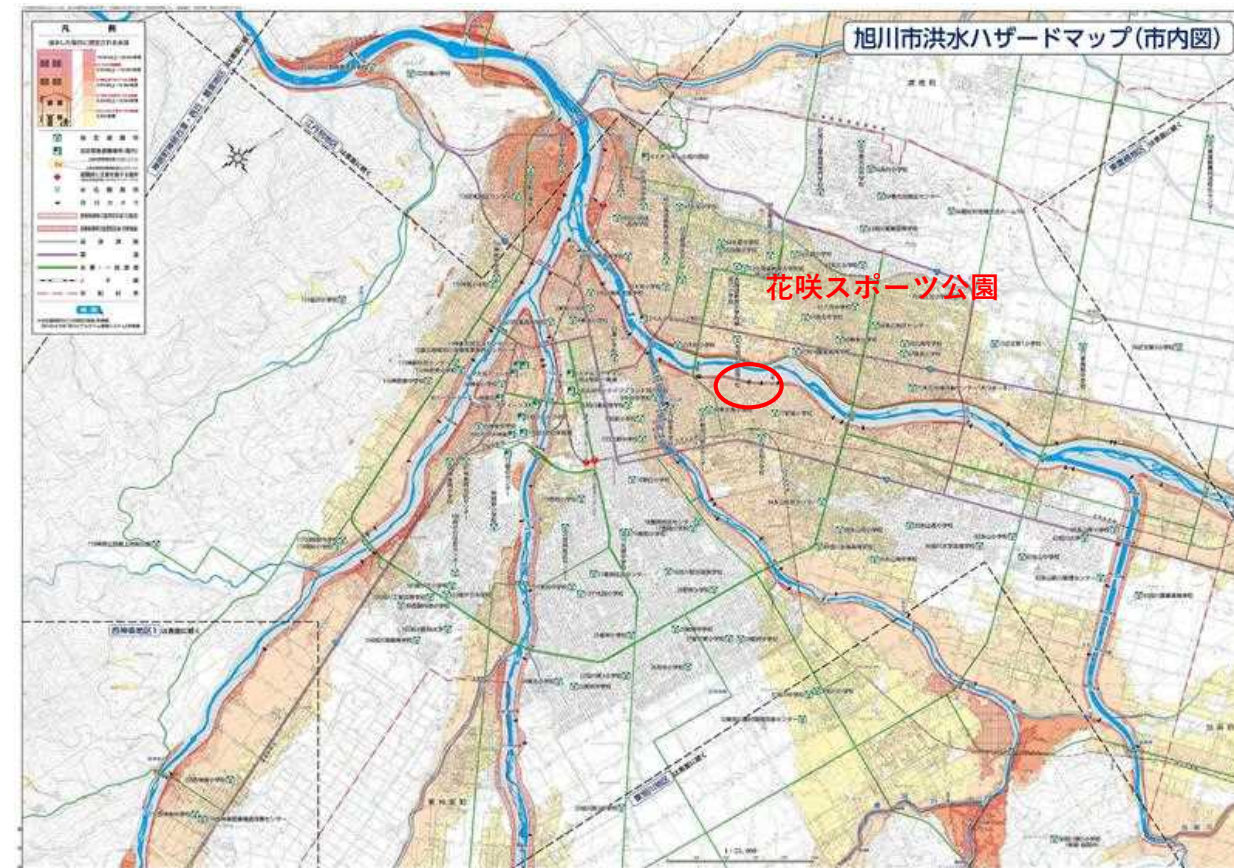
現在の防災計画上の位置付け

旭川市地域防災計画では、市内の大規模な公園を広域避難場所として指定しており、花咲スポーツ公園についても、水害時を除く指定緊急避難場所（広域避難場所）として指定されています。

現在の総合体育館は、災害時の救援物資を受け入れ・管理するための物資保管センターの開設場所として、大雪アリーナとともに設定されていますが、どちらの施設も浸水想定区域にあるため、実際の運用の際にはそれぞれの施設の被災状況に合わせて開設することとなります。

今後の防災計画上の位置付け

- 新アリーナは、総合体育館が担っている物資保管センターの役割を引継ぐ。
- 花咲スポーツ公園が指定緊急避難場所（広域避難場所）となっていることから、新アリーナは指定緊急避難場所（一時避難場所（屋内））として旭川市地域防災計画に位置付ける。



旭川市洪水ハザードマップ（市内図）

5. 整備方針



■ 基本理念・基本方針

目指すべき姿

新アリーナを核とした拠点づくりを目指し、
‘スポーツ’と多様なコンテンツを掛け合わせた新たな魅力を創出します。

スポーツは、発育期の健全な成長や健康増進をはじめ、人と人との交流を促進し、地域や経済への波及効果など、様々な価値をもたらすことが期待されています。花咲スポーツ公園の新アリーナの整備においては、本市のスポーツ振興を支える基盤を整備することに加え、新たなまちの魅力を創出し、自らのまちに誇りを持つシビックプライドの醸成へと繋げていきたいと考えています。



目指すべき姿のイメージ

基本方針

I 多様な世代が集う 交流拠点の整備

地域の方々が日常から利用でき、非日常も体験できる、
多目的な用途に対応した新たなまちのシンボル・
"旭川アリーナ（仮）"を整備します。

○アリーナの整備概要

- ・ プロスポーツやライブ・コンサートなどの興行をはじめ、多様なニーズに対応
- ・ 全国大会など、様々な地域から集う規模の大きい大会に対応
- ・ 自然環境への配慮、災害等への備えなど非常時に対応

II 旭川らしい 新しい価値の創出

「みる」「する」「ささえる」スポーツの拠点として
幅広い世代が様々な角度からスポーツを楽しめる環境を
整備します。

○公園施設再整備概要

- ・ ニーズに応じた機能とするため既存施設を再編・改修整備
- ・ 季節に応じた新たな遊びの空間を整備
- ・ 需要に見合った駐車台数の確保

III 多様化・変動する ニーズへの対応

地域課題や求められるニーズを的確に捉え、
魅力ある様々なコンテンツを提供していきます。

○PFIなど民間活力導入方針

- ・ 民間のノウハウが取り入れられる持続可能な事業スキームを構築
- ・ 収益施設を備え、公園施設との相乗効果により魅力向上を目指す
- ・ 公園全体をフィールドとした様々なイベントなどを企画・実施

6. 整備内容



■必要機能・規模

新アリーナの延床面積については、SVリーグやBリーグ等のプロスポーツのホームアリーナへの適用基準や他都市の類似事例を参考に検討し、以下の表のとおり設定しました。また、市民アンケートの結果等より、需要の高かった「こども用施設の充実」、「屋内型の遊戯施設」としてキッズルームを、「冬季等に屋内で運動が出来る施設」としてトレーニングルームを確保する計画としています。

室 名		面 積	備 考
メインアリーナ	競技エリア	競技場	有効 57m×35m以上 バスケ2面，バレー2面，バド12面，卓球20面
		観覧席（固定）	約5,000席，ランニングコースを含む
		その他	選手更衣室，器具庫，搬入スペース，移動観覧席収納
	スイート・ラウンジ		700㎡ スイートボックス，ラウンジ，パントリー トイレ，バリアフリースイート，授乳室
サブアリーナ	サブアリーナ		バスケ1面，バレー1面，バド4面，卓球5面
	観覧席（固定）		900㎡ 約50席
	器具庫		
多目的運動室		390㎡	卓球2面，倉庫
キッズルーム		100㎡	
トレーニングルーム		350㎡	
管理諸室		1,400㎡	事務室，医務室，ドーピングコントロール室，大会運営本部室，放送室，給湯室，多目的室，会議室（審判更衣室，演出出演者更衣室，メディア対応エリア等），警備室，防災備蓄倉庫，電気室・発電機室・機械室
共用部		4,000㎡	エントランスホール，ロビー，ショップ，飲食関連施設，更衣室，多目的更衣室，トイレ，バリアフリースイート，授乳室，その他共用部
		約14,000㎡	

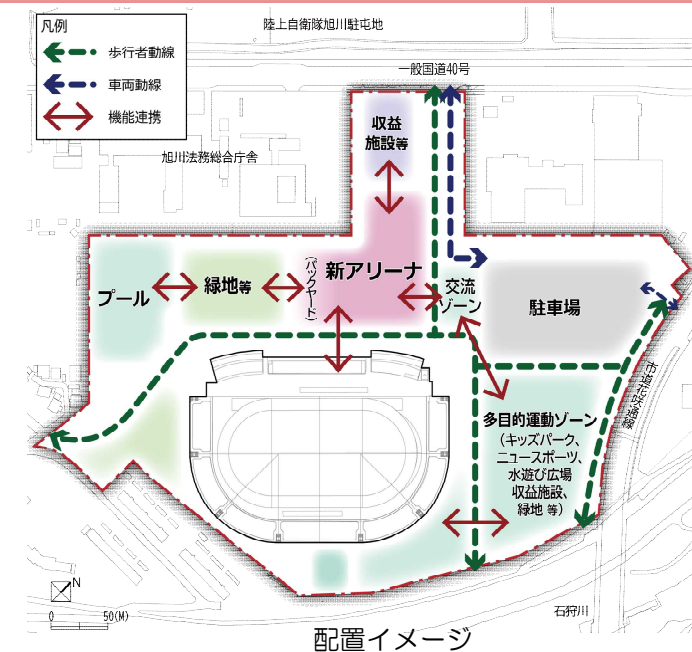
6. 整備内容



■公園北東側エリアの整備方針

公園施設計画 等

- 新アリーナ
公園全体のにぎわい創出と施設間の連携に配慮し、国道40号からの視認性が確保でき、かつ公園内の動線の結節点となる位置に配置
- ニュースポーツエリア
ニュースポーツ（アーバンスポーツ）の発展を見据え、バスケットボール（3×3）やスケートボード等を実施できるエリアの整備を検討
- キッズパーク
こどもたちが遊べる噴水や複合遊具等の遊戯施設を整備
- 馬場
市民や観光客が手軽に乗馬を楽しむことができ、賑わいや交流の拠点として期待できることから、相撲場の跡地を含めた陸上競技場東側に再整備
- 収益施設
飲食店、売店等の収益施設は民間事業者による設置、運営を検討
配置は、公園外からの視認性が高く、利用しやすいメインアプローチ付近の配置を基本とし、利便性を配慮して検討
- 駐車場
総合体育館や公園内の屋外スポーツ施設で開催されている大会では、概ね2,000人以下の参加人数となっているため、それに対応する駐車台数として「約500台」の駐車台数を確保



バスケットボール（3×3）コート



複合遊具



噴水・水遊び広場

6. 整備内容



■新アリーナ整備方針

主要所諸室条件

- ① メインアリーナ
- ・メインアリーナの規模は、バスケットボール2面、6人制バレーボール2面等の設置が可能な57m×35m（有効寸法）以上。
 - ・3階にはSVリーグやBリーグの施設基準に対応するスイートやラウンジ、固定観覧席の後方周囲にはランニングコースを整備
 - ・2階に車椅子利用者席及び固定観覧席、立見席、1階に移動観覧席等を設置し、計5,000席を確保（プロの試合に対応）
 - ・多様なイベント等に対応できる照明設備や音響設備を計画、プロスポーツ開催時に使用できる大型映像装置を壁面等に設置

名称	大型ビジョン	観客席	ランニングコース	スイート・ラウンジ
イメージ				

- ② その他の諸室
- 大規模大会時の第2会場にも利用可能な「サブアリーナ」や卓球・格技等での利用が可能な「多目的運動室」，「トレーニングルーム」「キッズルーム」，プロリーグやイベント開催時には物販も行える「飲食関連施設」等，多種多様な設備を整備

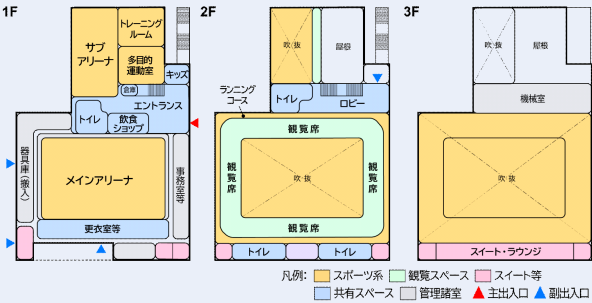
名称	サブアリーナ	多目的運動室	トレーニングルーム	キッズルーム
イメージ				

防災機能等

- 防災機能
 - ・洪水による浸水の可能性に配慮し、主な電気・機械設備はGL+3m以上に設置
 - ・物資保管センターの役割を引き継ぎ、指定緊急避難場所機能を担うため、非常用電源及び燃料確保と防災備蓄倉庫を設置
- 構造計画（耐震安全性）

「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」における「地域防災計画において避難所として位置づけられた官庁施設」に相当する「構造体Ⅱ類，建築非構造部材A類，建築設備乙類」を確保
- 環境・設備計画

総合的な省エネへの取り組みを積極的に推進し，ZEB Oriented（本事業では一次エネルギー消費量30%以上削減）以上の性能を確保
- ユニバーサルデザイン
 - ・年齢・性別・国籍等を問わず，誰もが利用しやすい施設として，ユニバーサルデザインに配慮
 - ・両アリーナの観客席には，車いす利用者席を設置。親子連れの利用者の利便性を考慮し，ベビーチェアやおむつ替えスペース，授乳室等の整備



ゾーニング案

6. 整備内容



■概算事業費

- 新アリーナの建設費は，約140億円(税込)
 - 新アリーナの維持管理・運営費は，約2.8億円／年(税込)
- ※近年建設単価・人件費等の上昇が著しいことから，今後も必要に応じて見直しを行うこととします。

・建設費の算定に用いる工事単価は，近年入札が行われた公共体育館の工事単価等を参考に，年次補正・地域補正

・維持管理・運営費は，総合体育館を参考に算定

概算事業費（百万円・税抜）		
費 目	事業費	備 考
設計・工事監理費・調査費	501	地盤調査費含む
建設費	15,853	
・新アリーナ	12,728	ZEBOriented相当
・馬場	657	
・外構費	2,468	ニュースポーツ備品，3×3バスケットコート，遊具等含む
解体費	562	現総合体育館，既舎，屋外トイレ等
備品費	348	
合計	17,264	

7. 東光スポーツ公園の見直し内容について



■東光スポーツ公園複合体育施設の見直し内容

【平成28年度】

●東光スポーツ公園複合体育施設の基本計画・基本設計において、東光スポーツ公園複合体育施設はプロスポーツ等の試合誘致も想定した観客席や控室等を検討



【令和5・6年度】

●花咲スポーツ公園再整備基本構想・基本計画において、新アリーナはプロスポーツやライブ・コンサートなど多目的な用途に対応したプロフィットセンター機能を有する多目的アリーナとして整備



●東光スポーツ公園複合体育施設は市民利用や大会開催に適したスポーツ施設とすることとし、プロスポーツを想定した観客席数や控室等の削減、より大会利用がしやすい施設配置等を見直しを行う。

8. 今後の予定について



■花咲スポーツ公園新アリーナ等基本計画案の意見提出手続

令和 7 年 1 月 2 3 日(木)から 2 月 2 1 日(金)まで実施

■花咲スポーツ公園新アリーナ等整備の想定事業スケジュール

官民連携手法の導入を想定した場合，新アリーナの整備は、以下に示す事業スケジュールを想定しています。
なお，総合体育館は新アリーナ及び東光スポーツ公園複合体育施設の供用開始後，速やかに解体します。



令和 7 年度

■花咲スポーツ公園再整備基本計画策定

新アリーナの設置位置に合わせ，公園全体の再整備の詳細について検討

■東光スポーツ公園整備事業の精査

新アリーナとの機能分担を踏まえた機能の見直しについて具体的に検討